

冬の空に響く明るい歌声

～アコーディオン、ギター、フルートの生伴奏にのせて歌う、うたごえ広場「ウポポイ」～

川口市健康生きがいづくりアドバイザー協議会
会長 中尾 堯

<活動の概要>

活動の名称	うたごえ広場「ウポポイ」＝毎月第1木曜日14時～16時開催
活動地域	埼玉県川口市「上青木公民館・視聴覚室」
対象者	川口市及び近隣地域にお住まいの方（どなたでも参加可）
メンバー	中尾さんご夫妻とボランティア2～3名 伴奏のアコーディオン、ギター、フルート演奏者 各1名
参加費	500円（公民館使用の為会費としていただいている）



1. うたごえ広場「ウポポイ」始動のキッカケ

中尾さんが住む埼玉県川口市では、50歳を「第二の成人＝盛人（せいじん）」と呼び、セカンドライフでは地域活動に取り組むことを推奨している。中尾さんもいくつかの盛人活動に参加している中で、活動参加後にはカラオケに行くことも多く、仲間づくり、コミュニケーションづくりの良い機会となっていた。しかし、カラオケはともすると、のど自慢披露の場となることが多く、必ずしも全員が楽しんでいるとは限らないことに気付いた。そこで、中尾さんの番になり、リクエストした3曲「青い山脈」「リンゴの唄」「高原列車は行く」を全員で歌うことを提案したところ、部屋の中にいた多くの人たちが楽しそうに歌いはじめ、これまでとは打って変わって和やかな空気に変った。その時に、「そうだ！歌声喫茶を始めよう！」と思ったそうです。もともと歌が好きで学生の頃には歌声喫茶によく通っていたこともあり、みんなで歌う楽しさを改めて実感。全員が気兼ねなく思い切り歌える場をつくらうと思い立ったのがきっかけでした。



▲投影された歌詞を見ながら生伴奏にあわせて大きな声で歌う

当初ギターでの伴奏を考えたが、メロディーが弾けるアコーディオンがいいのではないかと考え、アコーディオン教室へ通い始めた。しかし、ご自身の上達を待っていると、果たして実現するのはいつになるかわからないということで、思い切ってアコーディオンの先生に相談したところ、快く引き受けていただき、構想10年後の2012年1月に「歌声サロン」活動がスタート。

当初ギターでの伴奏を考えたが、メロディーが弾けるアコーディオンがいいのではないかと考え、アコーディオン教室へ通い始めた。しかし、ご自身の上達を待っていると、果たして実現するのはいつになるかわからないということで、思い切ってアコーディオンの先生に相談したところ、快く引き受けていただき、構想10年後の2012年1月に「歌声サロン」活動がスタート。

2. 会場に響く老若男女の明るい歌声—楽しく歌えるシカケが一杯！

休憩をはさみ2時間で歌うのは、懐かしの唱歌、昭和歌謡からフォーク・ポップスまで約20曲。毎回テーマを設定し選曲。アコーディオン、ギター、フルートの生伴奏に乗せて歌う歌の数々。知っている曲も、知らない曲も、みんなが一緒に楽しく、大きな声で思い切り歌える会には、さまざまな工夫と配慮が散りばめられている。

歌詞はプロジェクターで投影し、前を見て大きな声で思い切り歌える工夫が。さらに、それぞれの歌のつくられた時代背景や作詞家、作曲家のプロフィール紹介等歌に纏わるエピソードを交えた解説は、参加者の頷きと納得感を誘い、これから歌う曲への意識を高め、思いを込めて歌う入り口となっていました。



